

令和7年度 第3回 葵が丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年11月21日（金） 15時00分から16時30分まで
2 開催場所 葵が丘小学校 南校舎1階 多目的室
3 出席委員 小栗 則利、桐村 哲雄、見野 泰弘、若松 由希野、田村 都弥、柳澤 照美
4 欠席委員 伊藤 謙吾
5 オブザーバー 鈴木 克隆（北部協働センター）
6 ~~学校支援コーディネーター~~ 西原 真知
7 学 校 小山 貴広（校長）、佐藤 明世（教頭）、芹澤 純子（CS担当職員）
村上 朝香（CSディレクター）
8 傍聴者 なし
9 会議録の作成者 CSディレクター 村上 朝香
10 議長の選出

小栗会長より、第1回の会議上で年間を通して見野委員が務めることが提案され、全員異議なくこれを承認した為、予定通り見野委員が務めることになった。

11 協議事項

- (1) 学校中間評価及び令和7年度全国学力・学習状況調査について
- (2) 現状における課題と改善策・支援策について

12 会議記録

司会の佐藤教頭から、委員総数7人のうち6人の出席があり、過半数を超えていたため、会議が成立している旨の報告があった。

○ 熟議

- (1) 学校中間評価及び令和7年度全国学力・学習状況調査について
議長の指示により、教務主任から別紙資料に基づき、学校中間評価及び令和7年度全国学力・学習状況調査についての説明があり、委員から以下の発言があった。
 - ・ 図書室を利用する児童は多いのか。現代は新聞を読む機会が減り、活字離れが進行している。図書室利用を通して、活字に触れる機会が増えると良いと思う。（小栗会長）
→ 児童によって利用頻度に格差はあるが、図書サポーターによる支援が充実していることにより、本に触れる環境が整っている。（芹澤先生）
→ 中日新聞社の方が、インターネットを活用した子供向けニュースサイトの紹介をしてくれた。市内の多くの小・中学校が既に利用している。本校では4年生が活用し始めた。このようなツールを利用し、活字に触れる機会を本校も増やしていきたい。
(小山校長)
→ 図書サポーターの協力が充実していることもあり、借りやすい環境が整っているようと思う。（見野委員）
・ 「健康・安全を育む」の項目の結果が素晴らしい。学習に取り組む上で大切なことだと思う。その半面、タブレットを使用した学習結果において、先生の評価が少々後ろ向きのようを感じる。先生方の意見を伺いたい。（田村委員）

- 教師も模索中であることも事実である。新年度がスタートした4, 5, 6月度の調査結果のため、低学年はタブレットを使い慣れておらず、そのためこの結果となっている。市の方針でもあるため、ＩＣＴを活用しながら分かりやすい授業の充実を目指してはいるが、まだ授業で活かしきれていないのが現状である。（芹澤先生）
- 積極的にタブレットを活用している学校もあれば、様子を見ながら導入している学校もある。タブレットを操作する力はあっても、学習のツールとして活用できているかというと、まだまだ工夫が必要である。その一方で、ＳＮＳのトラブルも増えていることから、ネットリテラシーについても考えさせることも大切である。善悪の区別や感情のコントロールが苦手な子供が増えているのも事実で、ネットの影響も少なからずあるように感じている。慎重に対応していく必要がある。（小山校長）
- ・ 授業を行う上で、タブレットは先生にとって便利なツールなのか。（見野委員）
- メリット・デメリットがある。タブレットを活用することで、モニターに映し出すことができ、授業の進行がスムーズになる。一方で、ＰＣ上には履歴は残るが、ノートを使用しないため、紙面上には何も残らない。それに不安を感じる教員もいる。（芹澤先生）
- 紙面に残らないということは、復習はできるのか。記述式の問題が苦手であることとの因果関係はあるのか。（桐村副会長）
- タブレットを毎日持ち帰る習慣がないため、その日の授業を振り返ることは現状困難である。教師側は、生徒がタブレット上で提出したものを一度に見ることができ、大変効率的ではあるが、その反面、計算問題は問題を解く経過をノートには記入ができるがタブレット上では難しいため、活用の仕方を検討していく必要がある。（芹澤先生）
- 授業環境を整えた上で、タブレットを活用していかなければならぬ。どのような能力向上につながるのか見極めながら活用していく必要がある。タブレット活用が、教員の目指す学習環境に結びついていることが大切だと感じる。（佐藤教頭）

(2) 現状における課題と改善策・支援策について

- 議長の指示により、校長から別紙資料に基づき、現状における課題についての説明があり、委員から以下の発言があった。
- ・ 子供同士のトラブルに関して、子供たちで解決できる内容も、保護者を巻き込むことによって大事にしていると感じることがある。保護者は我が子に自分で考えて解決する力を身に付けさせていくことが大切なのではないかと思う。（西原コーディネーター）
 - 子供同士で解決できる内容と大人が介入することでスムーズに処理できる場合もある。一つ間違えるといじめに発展してしまう場合もある。その線引きが非常に難しいと感じる。（田村委員）
 - 外国人の保護者はコミュニケーションの問題もあり、子供同士のトラブルの解決が困難である。子供だけではなく、保護者も教育していかなければならない。文化の違いもあり双方の考え方で誤解が生じることがある。その誤解を学びの場として、互いを理解し尊重していくことが大切だと感じている。（柳澤委員）

- ・ 学校中間評価の「子供たちは、ルールやマナーを守り、よいこと・悪いことを判断している」の項目だが、児童と保護者の評価に対して、先生の評価が低い。どういう視点で先生方は判断しているのか。（見野委員）
 - 廊下を歩かずに走るなど、学校生活の中でのルールが守れない児童もいるため、そのような評価になっているように思う。（小山校長）
 - 児童・保護者・職員の評価に相違がある。三者の評価が一致していると学校としても協力・連携を取りやすいが、それぞれの立場において受け止め方の違いもあるため、協力・連携が困難な場合もある。今後の課題である。（佐藤教頭）
- ・ その他に本校の強み・弱み（改善点）はあるか。学校運営に関する職員アンケートをもとに委員の方々の意見を伺いたい。（小山校長）
 - 自分の思いや意見をしっかりと伝えられるようになってほしい。考えを言葉にし、自分の思いを相手に理解してもらうことは大切である。コミュニケーション能力を養う上でも、言葉を育て、考えを言語化するスキルを身に付けてほしい。（若松委員）
 - 現代は共働き世帯が主流であるが、保護者が子供と触れ合う時間を確保することが、子供の健やかな成長には必須だと感じている。親から学ぶべきことが学べていない環境もあるように思う。親から愛情を注いでもらうことが、家族はもちろん、人間関係の構築には大切だと感じる。（鈴木さん）
- ・ 葵が丘小の子供たちにどのような「人」に育ってほしいか。（小山校長）
 - 人懐っこい・先生との距離感近く親しみやすい。（見野委員）
 - 人に迷惑をかけない・人の痛みのわかる子に育ってほしい。（小栗会長）
 - 素直な子・垣根が低く、相手を理解する心の広い子。（桐村副会長）
 - 葵が丘小の児童の特長である「人懐っこさ」をさらに伸ばしてほしい。「人懐っこい」ということは、言い換えれば「人と関わることが好き」ということでもある。その特長をより良く楽しいものしていくと、相手の気持ちを理解し思いやりのある子に育っていくのではないかと思う。（田村委員）
- ・ 令和8年度の学校教育目標に向けて、今年度のグランドデザインについて修正すべき点あるか。（小山校長）
 - 文字が多い。把握しきれない。（見野委員）
 - 情報量が多すぎる。シンプルにしたほうが良い。（桐村副会長）
 - 幼稚園と小学校との教員同士の交流の場があると良い。（田村委員）

協議の結果、全員異議なくこれに賛同した。

◇ その他報告事項等

- ・ 学校支援コーディネーターから、活動の報告があった。

◇ その他連絡事項等

- ・ 司会から、次回会議は令和8年2月10日（火）15時から多目的教室で開催する旨の報告があった。